

後記

社団法人 日本東洋医学会
関東甲信越支部

平成15年度 第2回 東京都部会

日時：平成16年3月7日（日）10時～15時10分
会場：慶應義塾大学病院11F大会議室

日本東洋医学会 関東甲信越支部
平成15年度第2回東京都部会

日時 : 平成16年3月7日(日)
場所 : 慶應義塾大学病院新棟 11 F大会議室
〒160-8582 新宿区信濃町35
参加費 : 3000円 専門医点数:10点

56

－ プ ロ グ ラ ム －

・開会の挨拶 東京都部会長 永井良樹

講演Ⅰ 10:00～11:00 「遺伝子は証に迫れるか？」

－ SNP 解析による個別化治療の可能性 － ・・・1頁

慶應義塾大学医学部内科 村田 満

【座長】慶應義塾大学医学部東洋医学講座 入江祥史

講演Ⅱ 11:00～12:00 「関節リウマチ(RA)と抗サイトカイン療法

－ 漢方医学との接点 － ・・・・・・・・・・3頁

慶應義塾大学医学部内科 平形道人

【座長】慶應義塾大学医学部東洋医学講座 福澤素子

・東京都部会総会 13:00～13:10 東京都部会長 永井良樹

講演Ⅲ 13:10～14:10 「江戸時代、東西医学の対話

－ 吉雄幸左衛門 耕牛を中心として」・・・・・・・・5頁

青山学院大学名誉教授・文学博士 片桐一男

【座長】慶應義塾大学医学部客員講師 村田高明

講演Ⅳ 14:10～15:10 「臨床の現場における東西医学の融合」・・・・・・・・7頁

慶應義塾大学医学部客員教授 秋葉哲生

【座長】慶應大学医学部東洋医学講座 渡邊賢治

・閉会の挨拶 第2回都部会実行委員長 渡邊賢治

「臨床の現場における東西医学の融合」

慶應義塾大学医学部東洋医学講座 秋葉哲生

東アジア儒教文化圏には、現在大略二通りの伝統医学が行われている。古代中国医学の祖形を色濃く残す中医学や韓医学と、約三百年前に西洋医学との折衷がはかられた日本の漢方医学とがその二潮流である。

二十一世紀になって大学教育に漢方医学が組み込まれる機運が生まれたが、江戸期の先人の業績がなかったならば漢方医学の命運はどのようになっていたかは想像することさえ困難である。

今日漢方医学をもって医療にたずさわる者の原形は、伏屋素狄ら漢方医学の素養の上で西洋医学を習得した江戸の医療人であることはあらためて強調されてよい。

1986年以降の漢方医学の臨床研究論文を紹介して、江戸期以来のわが国の漢方医学に底流する特質について論じてみたい。